

郷土への愛着をもち、社会と関わろうとする子どもを育てる 中学年社会科学学習指導

～ 地域に根ざした教材との出会いと、体験的な活動を位置づけた単元構成の工夫を通して ～

所属機関 糸島市教育センター
所属校 糸島市立南風小学校
職・氏名 教諭 津秦 将弘

1 主題の説明

(1) 主題の意味

ア 「郷土への愛着をもち」とは

自身の住んでいる土地の環境・伝統・文化・社会の仕組みのよさを感じ、それらに関わる人々の営みを関連付け、人々の思いや願い・状況や立場に共感したり、寄り添ったりして社会的事象の価値を追究することで、自身とのつながりや恩恵に気づくことである。

イ 「社会と関わろうとする」とは

「自分にできることは何か」「これから自分はどうかあるべきか」と思考・判断を積み重ね、自分なりの取捨選択をしながら自分にできることを考えたり、自分の生活を見直したりすることである。

ウ 「郷土に愛着をもち、社会と関わろうとする子ども」とは

社会科の学習の中で、郷土に関わる人々の思いや願い、状況や立場を関連付けて、社会的事象を多面的・多角的にとらえ、自身とのつながりや恩恵を感じながら、自分にできることを考えたり、自分の生活を見直したりする子どもである。本研究では、具体的な子どもの姿を以下のように考える。

知識・技能	社会的事象の地理的環境・伝統・文化・社会の仕組みに関わる人々の関わりを様々な立場に立って考え、自身とのつながりや受ける恩恵を理解することができる子ども
思考・判断・表現	社会的事象に関わる人々の営みのよさや意味を考え、これからの社会との関わり方や、自身の生き方を、自分なりに取捨選択して、表現することができる子ども
学びに向かう力	社会的事象に問題意識をもって追究し、社会のために自分の意思・判断に基づき主体的に関わろうとする意思や態度をもち子ども

(2) 副主題の意味

ア 「地域に根ざした教材」とは

直接観察・調査・追究でき、社会的事象を身近に感じ、人々の思いや願いに共感できる身近な「ヒト・モノ・コト」を思考や疑問に応じて出会わせ方を工夫したものである。

イ 「体験的な活動を位置づけた単元構成の工夫」とは

単元の導入・展開・終末にG Tとの交流や実地見学などの体験活動を意図的に仕組んだ単元構成のことである。

2 研究の概要

(1) 研究の内容

ア 教材化の視点に沿った地域に根差した教材との出会わせ方の工夫

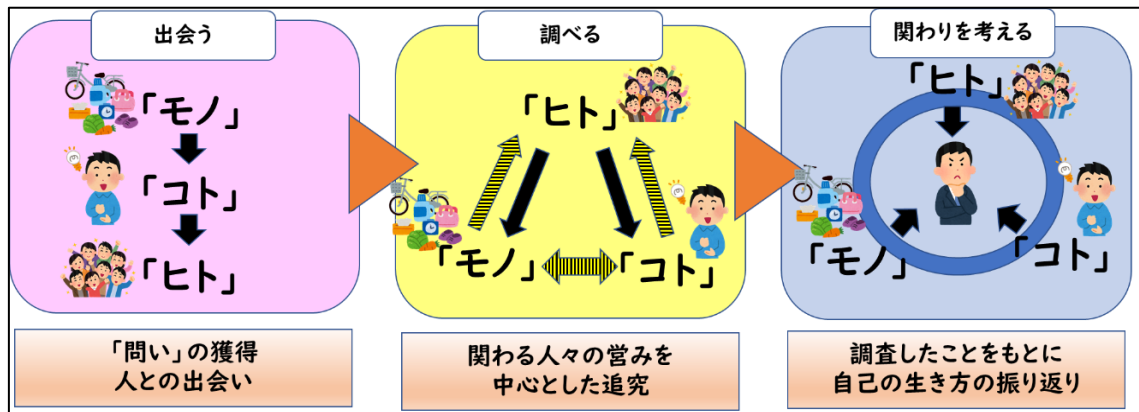
(ア) 教材化の視点

教材となりえる身近な「ヒト・モノ・コト」はどのようなものでもよいわけではない。そのために本研究では、次の3つの視点をもとに、教材化した「ヒト・モノ・コト」に出会わせる。

- a 社会的な「見方・考え方」を働かせられるものか
- b 子どものもつ知識や経験を揺さぶり、「追究したい」と感じられるものか
- c 人物との必然的な出会いがあるか

(イ) 出会わせ方の工夫について

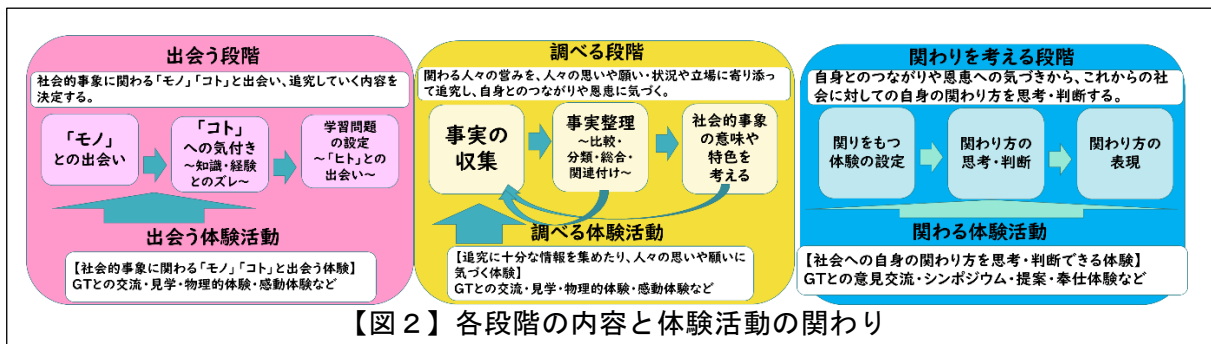
子どもたちが「問い」を獲得したり、人々の営みを中心に追究するための、必然的な出会いを生み出したりするために、「ヒト・モノ・コト」を何のために出会わせるのかを整理し、出会わせる順番を工夫する。



【図1】「ヒト・コト・モノ」との出会わせ方

イ 単元に、三つの体験活動を位置づけた単元構成の工夫

本研究では、単元を「出会う」「調べる」「関わりを考える」の三段階に分けて単元を構成していく。







【図2】各段階の内容と体験活動の関わり

3 実証2の指導の実際

(1) 単元名「糸島平野物語」

(2) 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう人間性等
当時の世の中の課題や、人々の願い等について理解し、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。	先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連づけて考え、適切に表現している。	市内の先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。また、先人の働きへの理解から、自分自身の生き方を見直し、実社会への関わり方を考えることができる。

	学習活動と内容	研究内容の具体
出 あ う	<p>1：稲作に関わる糸島の地理的環境を理解する。</p> <p>2：雷山大溜池について知り、学習問題をたてる。</p> <p>【出会う体験活動】 パーチャル社会科見学</p>  <p>【Google earth による見学】</p>	<p>【出会ったモノ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福岡県の米の生産量ランキング 糸島市の地形図 久留米市の地形図 糸島市のため池地図 雷山大溜池・記念碑 用水路地図 <p>【出会ったモノから分かったコト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 糸島市の米の生産量が多いこと 糸島市は川幅が狭く、田に必要な水をため池で補っていること 雷山大溜池が糸島市の中でも大きなため池であること <p>【出会う体験活動】 グーグルアースを使って、雷山大溜池をバーチャル見学する</p> <p>【予想されるズレや未知との出会い】</p> <ul style="list-style-type: none"> 川が狭いのに、田の生産量が多い→ため池のおかげである(大溜池に関係が?) 雷山大溜池は、自分たちの周りのため池と比べてもとても大きい 雷山大溜池は、前原に関係している
調 べ る	<p>3：雷山大溜池を造った理由を調べる。</p> <p>4：香力地区に大溜池をつくった理由を考える。</p> <p>5：どのようにつくられたのかを理解する。</p> <p>6：堤防づくりを体験する。</p> <p>【調べる体験活動①】</p> <p>7：香力の人々が大溜池築造に反対した理由を調べる。</p> <p>8：推進派・反対派の立場に分かれ、話し合う準備をする。</p> <p>9：「大溜池築造模擬会議」を開く</p> <p>【調べる体験活動②】</p> <p>10：できた後の糸島の農業の変化について調べる。</p>  <p>【堰堤づくり体験】</p>  <p>【模擬会議体験】</p>	<p>【追究のために出会った「ヒト」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大原研介・香力地区の人々 工事に参加した人々・前原地区の人々 <p>【調べる体験活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 堰堤作り体験をし、当時の工事の様子を理解する 雷山大溜池築造模擬会議を開き、開発推進派と反対派で立場を分けて話し合う <p>【社会的事象の意味について考える】</p> <p>大原研介が、様々な困難がありながらも雷山大溜池築造を諦めなかったことの価値について考える</p>
関 わ り を 考 え る	<p>11：学習してきたことを整理し、スライドの構成を考える。</p> <p>12：構成に沿って、スライドを作成する。</p> <p>【関わる体験活動】</p> <p>13：発表会をする。</p>  <p>【発表会の様子】</p>	<p>【自身とのつながりや恩恵への気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> 糸島市の農業の発展は、雷山大溜池ができたことによって支えられている 今なお糸島市の農業に雷山大溜池の水は使われている <p>【関わりを考える体験活動】</p> <p>大原研介の功績を語り継ぐために、紹介スライドをつくって周りに広げよう</p> <p>【学習問題の答え】</p> <p>雷山大溜池は、大原さんの決意や、香力地区の人々の糸島全体を思う気持ちによって工事が始まり、今も糸島の農業を支えている。</p>

【学習問題】 雷山大溜池は、なぜ・どのようにつくられたのだろう。

4 全体考察

(1) 知識・技能の面から

単元終了後のアンケートでは、実証1・実証2共に、「モノ」「コト」との出会いが、「問い」をもったり、意欲を高めたりすることにつながったと答えた子どもが約80%以上であった。アンケートでの自己評価も、社会的事象への理解が「できた」と答えた子どもが100%であった。また、郷土の社会的事象と自分たちとのつながりを問うアンケートでは、実証1では9割以上が、実証2では全員が、自分とのつながりを感じることができた。これらのことから、社会的事象を身近に感じられる地域に根ざした教材の出会い方を工夫することで、社会的事象に対する追究意欲や、知識の定着・自身とのつながりを感じることに有効であったと考える。

(2) 思考・判断・表現の面から

実証1で自分自身の行動を見直し、振り返られた子どもは、78%であった。実証2では、学習後に自分自身の行動を振り返り、具体的な行動を記述できていた子どもは68%であった。これは、「関わる体験活動」の中で、郷土に住む第三者とつながる体験を設定しなかったことで、自身を客観的に見るができなかったことが原因であると考えられる。

(3) 学びに向かう力の面から

「問い」をもつことができたかを分析した結果では、約90%の子どもが「問い」をもつことができていたことから、子どもたちが、自分なりの課題意識をもって学習に取り組んでいたことがわかった。

5 成果と課題

- 「モノ」との出会いから分かる「コト」を考えることは、子どもたちが自分なりの「問い」をもち、意欲的な問題解決につながった。
- 地域に根ざした教材に出会わせることで、社会的事象を自分ごととして捉え、郷土のため働く人物のよさを深く実感し、郷土への愛着をもつことができた。
- 「出会う体験活動」や「調べる体験活動」を設定することで、社会の仕組みや、関わる人々の思いを実感することができ、自身と郷土のつながりを実感することができた。
- 「関わる体験活動」をより自分自身と社会の関わりを考えられるように、郷土に住む第三者からの評価をもらう体験活動を取り入れ、自身の行動を客観的に振り返られる場面を意図的に設定する必要がある。

○ 参考・引用文献

- ・佐藤 正寿「社会科教材の追究」：2022年
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」：2017年
- ・文部科学省「体験活動事例集 - 豊かな体験活動の推進のために」：2002年
- ・厚生労働省「地域共生社会の実現にむけて」：2016年
- ・精選版日本国語大辞典：2005年
- ・糸島市「糸島市教育大綱」：2022年
- ・宗實 直樹「社会科『個別最適な学び』授業デザイン 理論編」：2023年
- ・横田 富信「小学校社会 問題解決的な学習の支え方」：2022年
- ・藤原 光政「社会科重要用語辞典」2022年
- ・田中 保樹 三藤 敏樹 高木 展郎「主体的に学習に取り組む態度その育成と学習評価」2023年